

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

第 4 回定時社員総会開催される

当協会は、第 4 回定時社員総会を平成 26 年 6 月 11 日（水）に東京都千代田区麴町六丁目のスクワール麴町において開催しました。

櫻井会長は、冒頭の挨拶の中で、「昨年度の新設住宅着工戸数は、消費税増税に対する駆け込み需要や政策の後押し効果もあって、98 万 7 千戸と 4 年連続の増加になったが、本年 4 月の消費税増税後においては、反動減が懸念されており、「好循環実現のための経済対策」の効果的な展開が期待されている。

プレカット加工業においては、安全・安心の住宅生産の基本となる品質の確かなプレカット部材を供給し、また、プレカット加工 CAD を活用した各種の木造住宅建築に関するサービスが重要になっており、特に、工務店等のお客様から意匠図をもとにプレカット加工図を作成する CAD オペレーターの役割は注目されている。昨年度、技術支援対策として実施した CAD 技術者研修には全国で 150 名を超える受講者があった。本年も、引き続き研修会を開催し、関連技術の普及向上に努めてまいりたい。ご来賓をはじめ関係者の皆様には、今後とも当協会をよろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。」と、厳しい環境の中で協会活動の活性化に向けた決意が述べられました。

次に、来賓を代表して、林野庁木材産業課海外森林資源情報分析官 井上幹博様からは、「国産材の中高層建築物への利用が期待されており、これらの消費者ニーズに対応した木材製品の供給を進めることが重要になっている。様々な取組を進めて行くなかで、プレカット協会の努力を期待したい。」と激励の祝辞がありました。

また、公益財団法人日本住宅・木材技術センター理事長 岸純夫様からは、「昨年の新設住宅着工数に占める木造住宅の割合は 56% になっており、競争力を付けてきた感じがする。ここ十数年間でプレカット加工率は格段に上昇し、現場での施工性の向上はもとより、施工期間の短縮にも貢献してきた。5 月末に建築基準法が改正され、3 階建ての学校について耐火構造の規制が緩和されるなど、木造建築物に追い風になっている。今後、プレカット加工業としても大きなチャンスになる。」と品質の高いプレカット部材の供給に寄与する会員工場に対する期待を述べられました。

総会の議事では、まず、平成 25 年度事業報告、収支決算報告が上程され、事務局説明の後、松島監事の監査報告があり、原案通り可決されました。また、平成 25 年度事業計画、収支予算について報告事項として説明され、異議なく了承されました。

今回の総会は、役員改選期ではありませんが、尾薮副会長の退任に伴う後任役員を選任が行われ、全木連副会長の島田泰助氏が新副会長に選任されました。



議長を務める櫻井会長



網野先生の講演

総会に引き続き、法政大学デザイン工学部建築学科 教授 網野禎昭氏による「ヨーロッパの木造建築から『木と建築の社会』を考える」と題した記念講演が行われました。

講演の中では、①中世のヨーロッパにおいては、三圃式農業が行われたため、森林の伐採が進み木材の枯渇から木材の利用制限と構法の制限が行われたこと、②現在のオーストリアでは、人口数百人の町でコンパクトな木造の集合住宅によるコミュニティが形成され、持続可能な社会の礎になっていること、③集合住宅の構法は基準構法として、枠組構法、マッシュホルツ構法、スケルトン構法であるが、実際にはこれらの構法の特徴を組み合わせたハイブリッド

構法によっていること等が紹介、説明されました。また、これらの集合住宅の生産においては、地域の地域産業が活躍しており、生産施工の担い手は、日常的技術の拡張というイノベーションの中でがんばっていることも紹介されました。

中大規模木造建築関連基準の見直しが行われる

— 建築基準法の一部改正 —

現行の建築基準法では、3階建ての学校等や延べ面積が3,000㎡を超える建築物を木造で建築しようとする場合は、主要構造部を耐火構造とする必要があるため、木材を耐火性の高い材料で被覆する等の措置が必要であり、木造らしい建築物の実現は困難な状況にあります。国土交通省では、平成22年10月施行の木材利用促進法等を受けて、木材利用を推進する観点から、実大規模の木造建築物による火災実験等を実施し、得られた新たな知見に基づき、①延べ面積が3,000㎡を超える木造建築物は防火壁を設けることで木造で建築することができる、②3階建ての学校等は天井の不燃化などの防火措置を講じることで木造の準耐火構造で建築することができる、こととした木造建築基準の見なおしが図られることになりました。このことにより、今後、中大規模木造建築物において、地域の木材利用促進が期待されます。この法律改正は6月4日に公布され、公布後1年以内に施行されることになっています。

木材利用推進中央協議会総会が開催

— 2020年オリ・パラでの木材利用推進を —

木材利用推進中央協議会（会長：吉条良明 全木連会長）は、平成26年6月18日に永田町ビルにおいて、平成26年度総会を開催しました。総会では、吉条会長のあいさつの後、林野庁木材利用課長から祝辞とともに木材利用推進施策の現状について、まず、市町村の木材利用方針の策定状況は、4月30日現在、約8割の1,396市町村で策定済みであること、CLTに関する建築基準の整備が進められていること、木造3階建て学校の建築基準の見直しが行われたこと、2020年オリンピック・パラリンピックでの木材利用の推進のための提案・取組を行っていること等について説明がありました。

議事では、平成25年度事業報告及び収支決算、平成26年度事業計画及び収支予算が承認されました。26年度の主な事業は、7月30日に全国会議の開催（木材利用優良施設コンクールの表彰式を併せて実施）、27年2月に「新たな木材利用事例発表会」の開催、「優良木造施設事例集」の発行等が承認されました。なお、優良木造施設事例集については、プレカット協会会員の皆様にも配布いたします。

平成25年 協会会員工場基礎調査結果について（第2回） — 会員からみたプレカット加工率について —

平成25年12月末現在の会員工場基礎調査結果に基づき、地域別のプレカット加工率を推定しました。その結果、全国平均では90.0%となりました。会員の皆様には、駆け込み需要の対応等で大変お忙しい中、アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。

プレカット加工率(%)	北海道・東北	関東	中部・近畿	中国・四国・九州	全国計
75～79	75、78				153
80～84	80			80	160
85～89	85、85		85	85、85	425
90～94	90、90、 90、90	90、90、 90、90、 90、90、 90、90、 92、93	90、90、 90、90、 90、90	90、90、 90、90	2,165
95～		95、95、 95、100	95、95、 95、100	95、95、 95	1,055
合計	763	1,290	1,010	895	3,958
(平均)	(84.8)	(92.1)	(91.8)	(89.5)	(90.0)
[前年平均]	[81.5]	[91.6]	[92.3]	[86.4]	[88.2]

◇簡単なコメント

- 平成25年12月末の会員が推定する地域のプレカット加工率は、全国平均で90.0%と前回調査（平成24年12月末）に比べて1.2ポイント上昇しました。最近のプレカット加工率は、ほぼ頭打ちの状況で推移していましたが、景気の回復や消費税率引き上げに対する駆け込み需要による新設着工戸数の増加と、現場での労働力不足等の要因によりプレカット加工への依存度は高まったと思われます。
- 全国各地域のプレカット加工率については、地域間のバラツキ傾向は依然として見られます。従来から加工率の低い北海道・東北地域では、3.3ポイント上昇しています。地域に受け継がれた伝統的な軸組構法や使用部材の種類の違い等により、手作業による継ぎ手仕口加工も行われていると思いますが、分譲住宅を中心にハウスメーカー等によるモデル的な住宅の普及もプレカット加工率の上昇に関係しているものと見られます。

プレカット業況調査(平成26年5月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率:53%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	14	45	41	- 27	- 56
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	31	55	14	+ 17	- 35
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答:6,140円(対前回調査-100円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	79	17	- 14	- 8
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	10	80	10	0	- 13
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	38	59	3	+ 35	- 5
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	24	73	3	+ 21	+ 24
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	17	38	45	- 28	- 60
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	24	59	17	+ 7	- 38

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査:平成26年2月

◇簡単なコメント

5月の各設問のDIのうち、資材の入手状況以外については総じてマイナスになっているが、3ヵ月後の予測では0若しくはプラスが予測されており、業況は今回の調査が底との見方もできる。3ヵ月後においては、加工単価は底を脱し、収益も好転するとみられている。

1. 受注額のDIは-27で前回調査時(平成26年2月期)に引き続きマイナスで推移しており、より厳しい状況になっていると読み取れるが、駆け込み需要の終焉とそれに反動減が原因である。また、3ヵ月後の予測は、好転とした回答は+17であり、今後の回復が期待される。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは-14で、前回から下落は続いている。これを反映してか、平均総加工単価は6,140円で3ヵ月前に比べて100円低下した。また、3ヵ月後の製品加工単価のDIは0で、下落基調からは脱することが期待される。
3. 資材入手状況のDIは+35と資材の入手環境は大幅に軟化し、ほぼ3ヵ月前の予測に沿うものになった。また、3ヵ月後においては+21と予測されており、資材入手は容易な状況が続くとみられる。
4. 3ヵ月前と比べた収益のDIは-28になり、前回調査時の3ヵ月後の収益予測-38ほどではないが、厳しい状況が続いている。3ヵ月後の予測は+7であり、収益好転の兆しが見え始めることが期待される。